すすめ料理　　冷盤　（前菜盛り合せ）
ビをふんだんに盛った、食通も舌を巻く
味、ご家族・グループでぜひご賞味下さい。

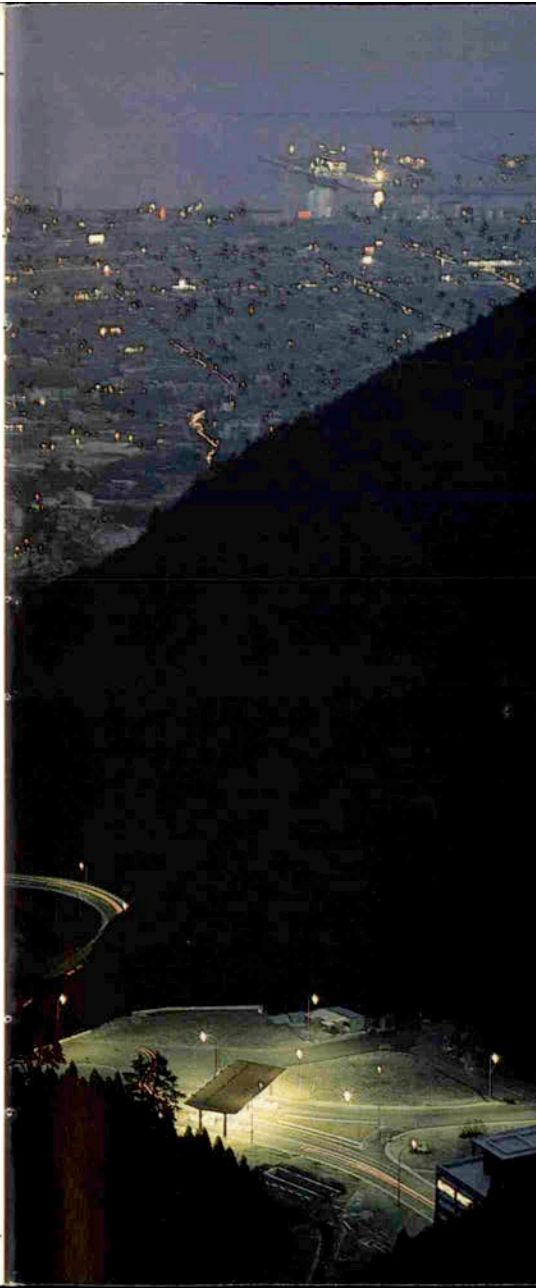
中華料理
京仙

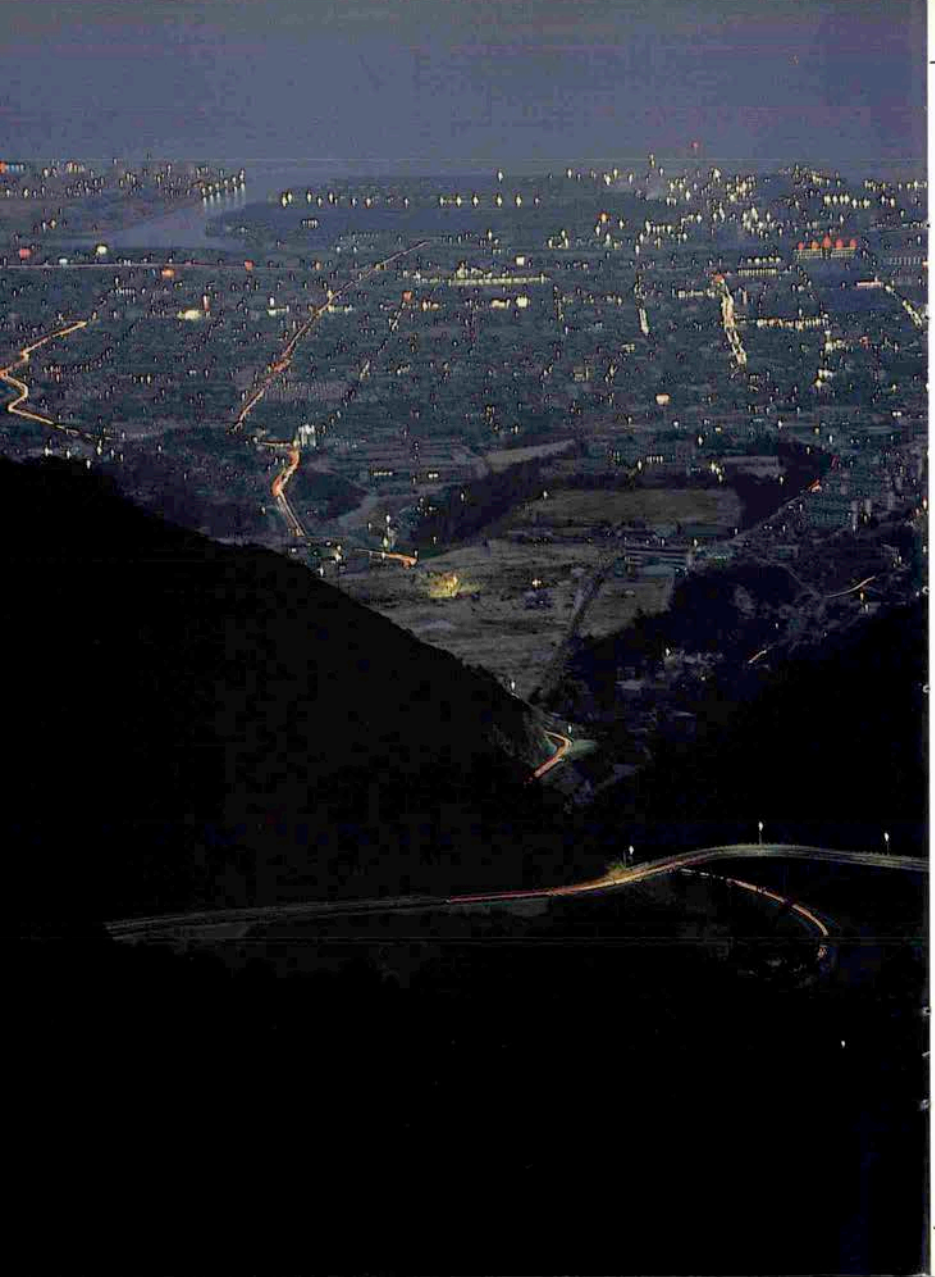
中央区栄町通１－５－５　南京町　☎391-5511
り、おちつける個室をご用意致します。火曜定休

ーフを永年の技術と誠意で焼きあげていま
介類のバター焼きもぜひご賞味ください。

ドチェーン
AK LAND山崎

－７－20（前川ビル1F）☎391－3335　5PM～11PM
姉妹店/ステーキランド神戸　☎332－1787





ギリシャ・パルテ
スペース。アダル
特典/ヤングは女性

中央区
☎391-4123　6:0

吟味された新鮮な
だけます。どうぞ
￥700～　鍋物￥20
約要)

大衆割烹

中央区
☎331-2878、33

パステルカラーにのって春が来た

FASHION HOUSE

MELL-ANNII

神戸市中央区元町通２丁目84　ジェムビル1F

TEL 078-332-0129

Pearl City Kobe

キノシタパール
春の新作ジュエリー展

1984.4.20(金)~22(日)
10:00AM~6:00PM
於オーダーサロン・キノシタパール

新しい季節の気品ある調べ…
エレガンスにあなたを装う
真珠とジュエリーの新作展です。
ご来店をお待ちいたしております。

- ブラックパール・ネックレス　¥720,000
- ブラックパール・リング　¥910,000

- オーダーサロン・キノシタパールでは、
品質・サイズともに豊富に品揃えをいたしております。

WHOLESALER & EXPORTER of Cultured Pearls
KINOSHITA PEARLS CO.,LTD.
Order Salon

〒650 神戸市中央区山本通1丁目7-7(北野坂)
TEL (078) 221—3170
10：00a.m.~6：00p.m. 木曜日定休

※このシリーズはまさカラーの素敵な女性に毎月ご登場いただきます。

KOBE MASA

まさ・阪急ファイブ店

ファッションコーディネイター

豊島万里子

休日にゆっくりとコーヒータイムを持つのが、「私の好きな時間」、という岡本仁見さんにはエイドリーのオシャレでちょっとステキな余暇をコーディネイトしてみました。

パンツ¥20,000　ブラウス¥16,000　ジャケット¥46,000(すべてエイドリー)　ネックレス¥6,900

MY FAVARITE TIME

—〈私の好きな時間〉—

APRIL

■	神戸	さんプラザ店	(078) 331—0950
		さんちか店	(078) 321—4545
		須磨パティオ店	(078) 792—5652
■	大阪	千里阪急地下街店	(06) 831—0756
		阪急ファイブ店	(06) 314—0303
		西武高槻店	(0726) 83—1787
		泉北パンジョ店	(0722) 93—0037
■	宝塚	阪急ファミリーストア店	(0797) 73—5359
■	大津	西武大津SC店	(0775) 25—5421
■	加古川	ニッケパークタウン店	(0794) 25—5514

撮影協力／アンリ・シャルパンティエ

LIZA 10th ANNIVERSARY PACK
アニバーサリーパック

10周年記念特別企画

販売価格　100,000円
（商品券10万円含む）
限 定 数　1,000個
販売期間　4月30日まで

リザ・クルージング'84　1泊2日船の旅

パックお買上げの方全員をご招待！

華麗な船旅1泊2日。愉快なゲームやイベントもご用意。

リザはファッションを通して豊かな生活を考えます
LIZA SALON
リザ・サロン神戸本店
神戸市中央区三宮町1-9-1 三宮センタープラザ3F TEL 078(391)6806

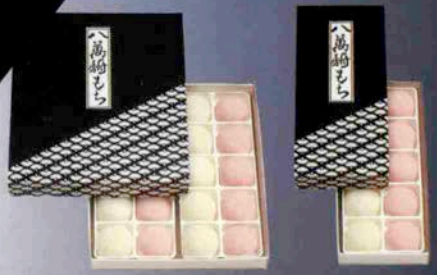
およろこびの日に…

八萬騎もち「佳日」

杜氏や蔵人達が精進を重ねつつ心をこめて慈しみはぐくんだ日本酒の醸造が日出度く完了して、やがてそれぞれの故里へと出で立つ日のよろこびと、遠く家にあってその人々を幾月か待ち焦がれていた家族達のよろこびとを思い、この佳き日を祝福して、素朴ながら味わい深いまろやかな紅白のぎゅうひを八萬騎もち「佳日」と名付けました。

おいしいお召し上り方

夏は少し冷やしてつめたい麦茶と、冬は熱い煎茶と御一緒にお召し上り下さい。味わい深いまろやかな風味がより一層引き立ちます。



20個入　¥1,000　10個入　¥500

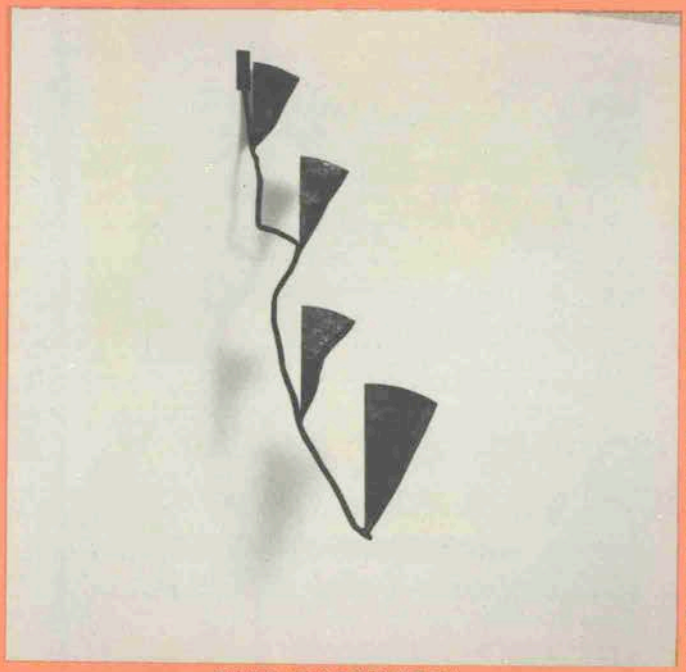
その他およろこびの日にふさわしい和・洋菓子をとりそろえております

神戸風月堂

神戸市中央区元町通三丁目三番十号
電　話（〇七八）三二一―五五五五

これは神戸を愛する人々の雑誌です
あなたのくらしに楽しい夢をおくる
神戸を訪れる人にはやさしい道しるべ
これは神戸っ子の手帖です

4月号目次 1984・No.276



目次作品／宮崎豊治「身辺モデル」

表紙／小磯良平
セカンドカバー／スケッチブックから〈64〉ヨーロッパを描く／西村　功
9　神戸っ子'84／杉山知子・小高正宏
12　ある集い／日本ケミカルシューズ工業組合青年部／鳴海正勝
15　コウベスナップ
16　エトランゼの輪郭〈26〉／片山　直
18　神戸の風色〈52〉／堀内初太郎
29　わたしの意見／奥村　孝
31　随想／藤原志保／花柳五三輔／吉田美穂子
34　詩心象〈22〉詩・安水稔和／絵・石阪春生
36　「大鴉」詩・時里二郎／コラージュ・北川健次
38　連載エッセイ／三枝和子・カット元永定正
41　地域文化論（その56）／藤岡ひろ子
42　インタビュー／阿久　悠
46　キャンペーン／ファッションタウン
52　神戸ファッション'84（各界100人へのアンケート）
65　経済ポケットジャーナル
68　座談会／元町キャンペーン／元町の文化と伝統を守ろう
70　話題のひろば①サンバパーティ「カルナバル・ド・コウベ」
②田辺聖子
③スリランカファンタジー／金子真珠
74　ファッションレポート／ルイ・ヴィトンジャパン株式会社社長　郷次郎社長を訪ねて
76　ファッションスポット
82　NEUE MODE MÄRCHEN／篠原順子
86　ノコちゃんの華麗なるKOBE見てある記／ジャヴァ新社屋
106　「話題の女」／阿藤久子
113　コーヒーブレイク
114　動物園飼育日記〈221〉／亀井一成
118　有馬歳時記〈4月〉
120　ふたたびプロフェッサーPの研究室／岡田　淳
123　神戸の集いから
124　神戸を福祉の町に〈124〉橋本　明
126　兵庫界隈記
129　KFSニュース
130　神戸百店会だより
132　ふらっしゅ・ぱっく〈42〉／淀川長治
134　KOBE MODERN CULTURE
136　コスモ・ファンタジー／キツネ キツ・ヨルノトノ①／佐藤晴美
142　ポケットジャーナル
147　びっといん
148　多田智満子　午后の対話／ゲスト・中西　勝
154　連載小説／昔の眼／服部洋介／絵・貝原六一
176　連載エッセイ／風のファンタジア〈4〉／吉村由美
178　海船港／RORO船 スーパーキャリア「バーバー・タンパ号」
カメラ／米田定蔵・橋本英男・田村　康・松原卓也
プレゼンツ・池田年夫

●ゲスト／加藤登紀子―ほろ酔いショウタイム―

月刊神戸っ子創刊23周年記念パーティ

'84世界の酒祭り

●とき
4月18日〈水〉
午後6時～8時30分
受付・午後5時30分

●ところ
神戸国際展示場2階
ポートライナー市民広場駅西

●かいひ
8,000円
飲んで、食べて、踊って

主催／月刊神戸っ子　後援／神戸百店会
お問い合わせ／月刊神戸っ子
神戸市中央区東町113-1 大神ビル9階 ☎078-331-2246

●プログラム

第13回ブルーメール賞表彰式

●受賞者

時里　二郎（文学部門）
末広　光夫（音楽部門）
藤原　志保（美術部門）
花柳五三輔（舞台芸術部門）
「真珠の街神戸」を考えるプロジェクト会議（ファッション部門）

昭和59年度神戸酒徒番附発表

東（文化人）		西（経済人）	
横綱	田辺　聖子	横綱	田崎　俊作
張出横綱	鴨居　玲	張出横綱	畑崎　廣敏
張出横綱	望月　美佐	張出横綱	上島　達司

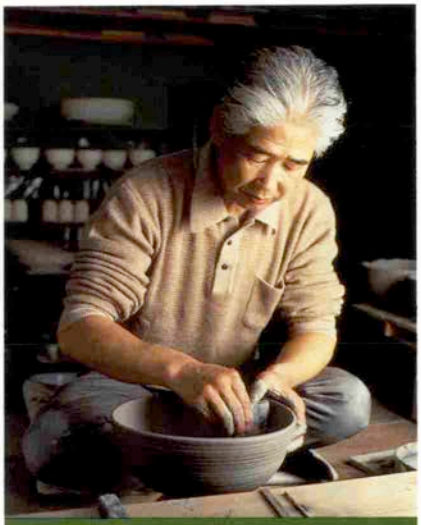
チャリティ福引大会

サンバ・フィーバー　月刊神戸っ子サンバチーム

Spring & Summer Collection
神戸に恋をした、おしゃれ空間ファッションパーク
リザ・サロン
ベンチ
Caro's
VICTOIRE
ダイアナ
サイズショップダイアナ
ルペール
ランプ
CAN
ゲルラン
東京屋
新宿・高野
BONフカヤ
ココ山岡
プランコ
ホットマン
三愛
電話078(332)1698
FASHION
PARK
神戸・三宮(さんプラザ・センタープラザ)
3F
営業時間 A.M11:00～P.M8:00

京の雅と気品を今につたえる、清水焼。

雲楽陶苑



陶歴

先代雲楽に師事し、作陶を学び、清水焼の伝統を習得するかたわら、日常食器の新分野開拓に取組む。近年、電気窯での焼成にいち早く取り組み、新釉薬の調合に努力した結果、独創の乾山風青抹陶釉を開発。独自の作風をきりひらいた。

清水焼　雲楽窯
伝統工芸士
三代　**斉藤雲楽**

古都、京都。そこに息づく伝統の日本美。その中で300年の歴史を持つ清水焼の、"雲楽陶苑"は伝統に新しい感覚を加え、生活の中に溶けこむ"やきもの"の美をお届けします。

- 大鉢、小鉢、花瓶、菓子鉢、夫婦茶椀、薄茶・濃茶茶椀、酒器セット、湯呑、ぐい呑み、銘々皿、箸置、土瓶、アクセサリーなど多種類の商品が揃っています。
- 記念品、引出物、ご贈答品にぜひ、オーダー出来ます。
- "雲楽窯"の窯元と同じ値段で、お安く求められます。
- "雲楽窯"へのロクロ見学、陶芸教室が開かれています。

清水焼

雲楽陶苑

神戸ポートピア店

〒650 神戸市中央区港島中町6-10-1
神戸ポートピアホテル
ショッピングアーケード「パレピアンカ」1階
☎078-302-1557
078-302-1111(内線3514)

☆私の意見

緑あふれるセーフシティコウベに

奥村　孝
〈兵庫県公安委員会委員長〉

宮崎辰雄氏が市長に就任されてから、緑化運動が盛んになりましたが、交通事故の件数が大幅に減り、神戸市が非常に安全な街になったということは、ほとんど指摘されていません。

歩行者が道路へ飛びだせなくするために、歩道に生け垣を設ける一方、緑化運動の一環として、中央分離帯が整備されたことなどにより、交通事故が減少しました。

宮崎さんが市長になられた昭和45年当時、神戸市内の交通事故死者数は、一年間120人でしたが、58年には、68人となり、4割以上も減っています。自動車一万台当たりの死者数は、44年が7・0人、58年には1・9人になっています。車の台数は増加する一方ですから、数字を見ただけでもたいへん安全になったといえます。

しかし、交通事故による死者数は、ここ数年横ばい状態になっており、設備の改善や警察の取り締まりによって死者数を減らすことは、もう限界にきています。今後の問題は、車の利用上のモラルの向上にあると思います。

たとえば、送迎の手段一つをとってみても、ある企業の社長が通勤する時、会社から迎えの車が社長宅まで行き、帰りは家まで送るというのが一般的です。これだと片道分、空車で走るという無駄が生じます。もし社長宅にガレージがあれば、運転手は朝直接、社長宅へ行き、帰りはそこから帰宅できるので効率がよくなります。車の動きもその分減るわけですから、当然、事故も減ります。その他にもまだまだ改善の余地はあると思います。

車の必要のない時は市民の一人一人が乗らないという習慣をつけるべきです。特にこの点については、各界のリーダーシップを取っておられる方からまず考えてほしいものです。この度、私は公安委員長に就任いたしましたが、これを機に私はなるべく車の使用を控え、つとめて電車、バスを利用することにしました。

理屈ではなく実行してみることです。みなさん私と一緒に車の使い方を考えようではありませんか。

（談）

伝統のホテルで、永遠の愛を誓う

オリエンタルホテルのご結婚式

明治、大正、昭和、
神戸のロマンとノスタルジー

オリエンタルホテルには、明治から大正・昭和にかけてのロマンとノスタルジーの香りがあります。

1980年代の今日、ホテルは今や人々の新しい広場になりました。洗練された挙式は103年の歴史を誇るオリエンタルホテルにおまかせください。きっと愛の記念日として心にのこる結婚式になるでしょう。

心なごむ挙式前のお点前、雅楽流れる中での三々九度、暖かい祝福に包まれる披露宴、お慶びの中にも格調あふれるご婚礼を、経験豊かなサービスでお手伝いいたします。

留居地時代(明治15年頃)
のオリエンタルホテル

心なごむ挙式前のお点前
は3階お茶室で

真心とサービスで素晴しい門出を

※オリエンタルホテルで挙式、
ご披露宴をなされたお二人を、
ご結婚一周年記念日の晩餐に
ご招待申しあげます。

神戸オリエンタルホテル

神戸市中央区京町25番地
TEL078(331)8111

Juchheim's

Tur große und kleine Feinschmecker
Kehr-Frankfurt am Main
Seit 1921

さわやかなやさしさを感じる

シラーロッケン

クレープを薄く焼き、くるくると巻きました。
甘さをおさえた軽い味、サクッとした口あたりです。

クレープ、ヨーグルト、ストロベリー、アーモンドの4種類。

ユーハイム

随想

「私のお酒」

藤原　志保
〈造形作家〈平面〉〉

鰭酒に墨画談義のここちよし

今年のような厳しい冬の楽しみは、何といっても、身も心も暖ったためてくれる。肝入りの「てっちり」。こたえられない。さらに身のしまった「てっさ」と、くれば、話もはずむ。そして、なくてはならぬ、うまい鰭酒。これは、鰭の乾燥度、焼き工合、酒の温度の調和が大事。

ほろ酔い気嫌の芸術談義はいいもので、又独創的なイメージが湧く時でもある。

午後2時頃から、4時頃まで、読書をしながらの昼寝の習慣がついている。そう、もう10年にもなる。うたた寝の時も又、いいもの。いいイメージが浮かぶ。しかし、夜中に目が覚め、創を練りだすと、これが全く眠むれない。次から次へと湧いてきて、ベッドサイドに、エスキースのメモが山となる。その時、メモしておかないと朝になると、全く忘れてしまっていることが多い。夜明けになって、うつらうつら、といった状態。

10年程前、ある老齢の画家が、「あなたは画を描くのに、何をもって描きますか、ミルクですか、コーヒーですか、お酒ですか」と。私は、直ぐに答えました。「もちろんお酒です。」と。その画人は、私に、じいっと見いっていましたもちろん、お酒を飲みながら、描くというのではなく、その境地をおたずねになったのでしょう。酔った画ほど、心楽しいものはない。又、酔えるから、剣の意気も描けるのである。

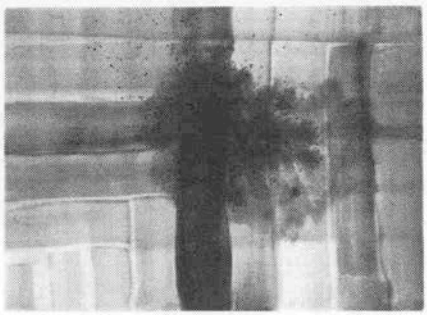
常々、酒に酔わずして、何ぞ、芸術がなせるものか、といった思いを持っている。

春近い今、春含む風におよぐ雲竜柳の新芽など、酒の肴にぴったりだ。又、春ともなれば、生気をいっぱい含んだ新芽の野菜に、魚海類の「会席料理」、これは又、楽しみで、一層、お酒のおいしい季節になる。

吟味された器に、料理の盛りつけ、薄味で深みのある味わい。香りも大事にゆきとどき、吸い物は、又、格別で、日本料理の粋のように思う。料理の品に、板前さんの心意気がつたわってくる。これは、芸にも通じるものがある。

今までに、影響を受けた画家はいますか、と質問されたことがあるが、私の場合、好きな画家はいるが、「書物から」、「目に入る風物」、「朽ちかけた壁」、「林の中で寝ころんで、天を仰いだ時」、「台風の暗雲に」、「じいっとみつめる水流に」、「春の息吹きに」……等に影響を受けているように思う。

街のショウウィンドウに、神戸の街に、今までの創作を展開させていく空気がある。エネルギーを



カット／藤原志保（爆　F10）

感じる。

おいしい料理や、お酒が楽しみで、仕事も出来るようなもので、桜花満開の月明りの下で、気のあった仲間と、おいしい料理をつまみながら、花冷えを、熱燗で楽しむのが、今から、待ちどおしい。

「人との出会い・友」

花柳五三輔
〈舞踊家〉

最近私は、人との出会い・おつき合いといったものに不思議な魅力を感じております。

昨秋、私は初めてのリサイタルを、神戸国際会館で開きました。その時に踊った中の一つ「鏡獅子」の演技に対してこの度、月刊神戸っ子よりブルーメール賞を頂けることとなり、とても感慨深く思います。と申しますのも、このリサイタルの前日、舞台稽古で、私は不幸にも（後で考えますと一概にそうともいえませんが……）肩鎖関節を脱臼してしまいました。誰の責任でもなく、唯々自分自身のミスからの怪我ですが、本番を翌日にしてのアクシデントには困ってしまいました。

私の初めてのリサイタル、東京よりお家元様はじめ、恩師諸先輩の方々の御出演の許、昼夜合わせて五番を踊ることになっていた私にとりまして、自分のこと以上にこのリサイタルのために、応援尽力してくれた、母親、友人、スタッフの方々の心情を思うと、もうたまらない程、自分のミスを後悔しました。もう明日は踊ることが出来ないだろうと、一時はあきらめの心境でしたが、荻原先生（荻原整形外科病院長）を紹介して頂き、当日麻酔をして無事踊り抜くことが出来ました。普通の医者であれば、恐らくこうまでしてはくれなかったのではと、本当に、荻原先生に出会えたことが幸運であったと喜び、感謝致しております。

また、私を踊らせるために気配りしてくれた友人達にも口ではいえないほどの感謝の気持が一杯で、よき友人を持てたことに誇りを感じました。リサイタルが無事終り、前述の荻原先生に手術して頂き、一と月近くの入院生活の中で、本来ならば舞踊シーズンのまっ最中で忙しい時期でしたが、却って自分自身、日本舞踊について考える時間が持てたのは、今迄にない収穫でした。この怪我によって、囲りの人々の情がよくわかり、本当に私を理解し応援して下さってる方々が誰であったのかも把握できました。

リサイタルの後、母（黒石紫月）の発表会の当日に祖母が他界するという不幸が重なり、ある意味でリサイタルの前後は試練の時でもありました。でも多くの友人に恵まれ、新たな人々との出会いに接することが出来ましたことは素晴しいと思います。これ迄以上に友人を大事にし、私を慕い信頼し寄って下さる方々のためにも、自分に厳しく日本舞踊という伝承芸術の道を邁進したいと思っております。

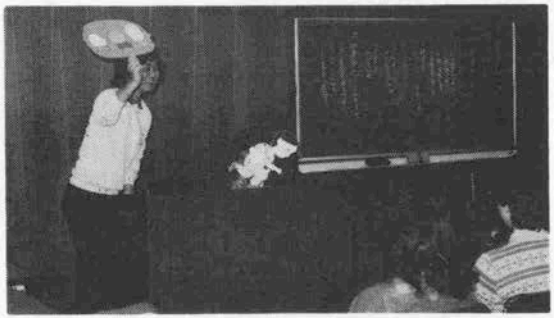
「蚤取男」を演じる筆者

こどもたちの身近に図書館を！

吉田美穂子
〈神戸市立中央図書館勤務〉

去る二月十一日に図書館問題研究会兵庫支部こども委員会主催で「公共図書館の児童奉仕を考える」集会をひらきました。県下の図書館員、小学校の先生、地域のこども文庫のおかあさんなど二十四名が集い、うち十四名は泊まりこみで話しあいを続けました。この集会は今年で二度目になりますが、今年の話題は、学校教育の場での児童文学教材の扱い方、こどもとことばの豊かな出会いのための本そして、各図書館現場での実情と課題でした。

さて現在、神戸の図書館での児童奉仕は、はっきり言って劣悪とも言える状態です。神戸市は「教育と文化のまち」を指向している筈ですが、少なくとも図書館行政については、指定都市中、下から一、二番を争う条件整備の貧困さです。そう言うと、大倉山の中央図書館を利用したことのある方はあんな新しくて大きな図書館があるのに、と思われるかもしれません。でも、図書館は、自学自習を助けるため継続的に利用されることを目的とした機関です。しかも年令的には、赤ちゃんからお年よりまで「すべての市民」を対象としているのです。ですから当然、成人に対する奉仕と同じように、こどもたちに対する奉仕も、業務の中に位置づけられていなければなりません。そのこともたちは、おとなとちがい、求める資料のために高い電車賃、バス代を払って遠い図書館にまで足を運ぶということはできません。図書館が身近にある環境の中でこそ、自ら知識を求め、豊かな想像力・創造力をもつ次代の神戸市民が育っていくのではないでしょうか。そのためには、地域図書館の充実こそが必要です。



昨年の集会より（左端が筆者）

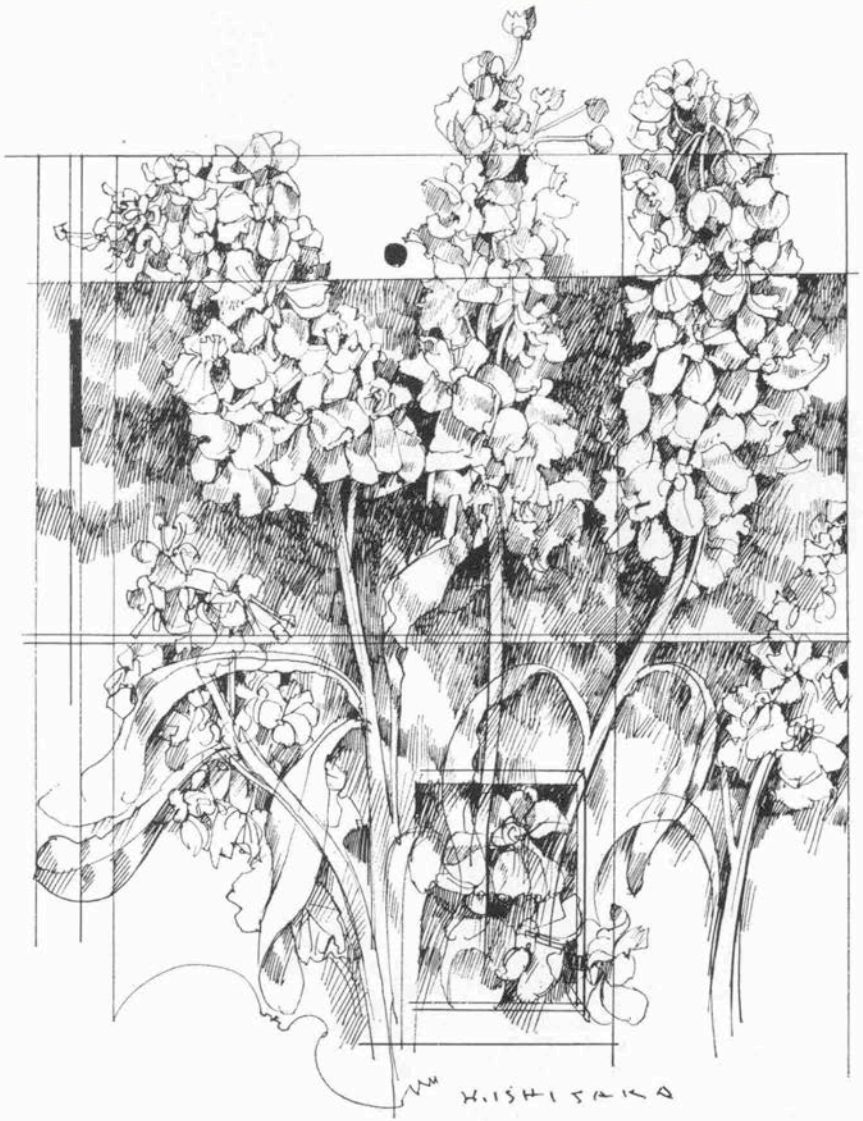
神戸には現在、七つの地域図書館と一台の自動車図書館があります。この地域図書館が先ほど言ったような貧困な状況なのです。図書館にとって生命とも言うべき図書購入費は指定都市平均の半分強しかありません。これではこどもの本までなかなか手がまわりません。また、五人の職員で年間三十五万冊以上、一人あたり七万冊という本を貸出しているので（これは全国でもワースト1といった数字です。）忙しい時は子どもの方へふりむくこともできないし、児童コーナーを荒れたままに放置しておかなければなりません。

児童奉仕では、おとなに対する以上に、心をこめ手をかけた、「心とことばのキャッチボール」が必要なのです。前提となる、本の中味についての知識も欠かせません。でも今、地域図書館では、そのために力やお金や時間を割く余裕がないのです。それでも職員手製のペープサートやテーマ別リストづくり、職員の肉声によるおはなし会など、少しずつは手がけてきているの ですが……。

神戸では、まだ、児童奉仕を業務の中に位置づけるための基盤づくりが必要な段階と言えます。

□詩心象□

詩・安水 稔和
画・石阪 春生



さかさま

横断歩道のまんなかでばったり出会った。さんちかへ降りていちばん奥にあるビアホールに入った。こうやって街へ出てきて人に会うのが楽しみでね。最近はすこし飲むともう酔いがまわって。詩人の七十の顔があかるんでいた。

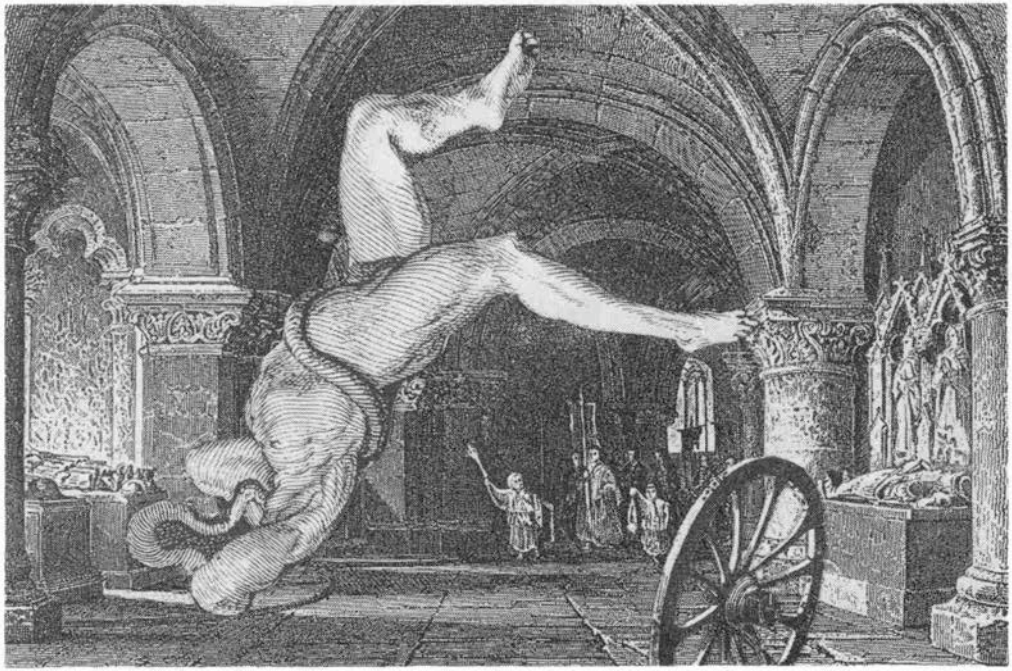
アメリカを追放されたジュールズ・ダッシンは天井からぶらさがって宝石をつかんだ泥棒をえがいたが。「君もぼくも／さかさま」（註）そういって詩人は片目をつぶって笑ってみせた。さかさまの店内。さかさまの街。揺れやまぬ水。

詩人山村順（一八九八―一九七五）の第一詩集『おそはる』は大正15年に海港詩人倶楽部から刊行された。これは竹中郁自宅の称であった。竹中郁の第一詩集『黄蜂と花粉』第二詩集『枝の祝日』も同所から刊行された。（註）は山村順の晩年の詩「さかさま」から。

□第13回ブルーメール賞文学部門受賞

大鴉

時里二一郎
コラージュ／北川健次



少年の暗室の中で仮装に耽る司祭の眠りは
湿原の泥に棲む　美しい螺旋宮を内部にもつ
巻き貝を愛撫する

フィルモース　セレアス
ヌーヴリン　司祭の唇に埋(うず)められた少年の名
は豊かにちぢれた海岸線に凌辱された薔薇の
海峡を滑走する

司祭の夢は少年の薄衣(キトン)を解き
緋色に染められた島々を巡った夭(わか)い魂の死を
追想しながら

漆黒の初列風切羽をひるがえし
て　大鴉は少年の暗室の中でめざめる

その虹
彩の中に認められる闇の輪(リング)は穿たれた鍵穴の
ように　司祭の夢の円環を象(かたど)っている

●れんさいエッセイ●ペンのうちそと● 13

女と宗教

三枝和子〈作家〉
え・元永定正

今日は、ちょっとムツカシイ話。

「神戸っ子」はいつも気楽に書かせてもらっているし、私も気楽な場所で気楽なことを書くのは大好きなのだが、こないだ、と言っても二月十八日神戸のＹＭＣＡへ話に行ったら、編集の小泉美喜子さんが聴きにいらしてて、面白かったからこの話チラッと書いて下さいよと言うわけで、私もチラッと面白く書くつもりだったのだが、急にモンダイが私のなかで過激に展開してしまって、なかなかチラッと面白く、というわけにはいかなくなってしまった。

したがって、ムツカシイので、ムツカシイノキライ、の方は今回パス、でも良いと思っているくらい。それでもなお、他のことを書かないで、このことを書こうというのにはそれなりの理由がある。

実は私は、ＹＭＣＡの集まりで、こともあろうにキリスト教で、いま一番ホットな問題にクチバシを容れてしまったのである。御存知の方も多いと思うが、例の「父なる神」という呼びかけを、これからは「父と母なる神」としようという米国教会での動きである。

これは言うまでもなく「フェミニズムと宗教」の問題であって、つい先日（三月三日）「朝日新聞」の「手帳」欄に、京都でもこれに関するパネルディスカッションが開かれたことが報じられていて、かなり関心が昂まっているようである。

「神や仏の前ではみな平等であるはずなのに、現実の教団の中には性差別が存在している。社会のあり方を、教団がそのまま反映しているのは当然ともいえよう。現状に不満はあるが、宗教そのものについては『フェミニズムの立場からキリスト教を見るようになってから、かえって神に近づいたように思う』『女性解放運動に加わってみて親鸞のことばが心にぴったりくるようになった』といった発言が会場から相次いだ」と「手帳」氏はその場の空気を要約していた。

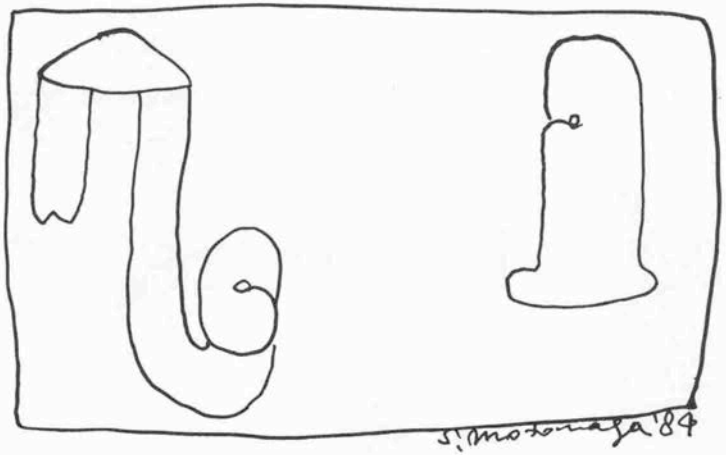
もっとも私はそれ以前に、ＹＭＣＡの浮田由子さんからこの話を聞いていて、出席者のカーター・愛子さんというひとの発言が三枝さんの主張とどう噛みあうのか、と「キリスト新聞」に掲載された彼女のエッセイの切り抜きが送られて来ていた

カーター・愛子さんのこのエッセイが、「フェミニズムと宗教」のパネルディスカッションの雰囲気とどの程度かかわりあっているのか、現場を知らないから推察でしか言えないが、現状に対して、きわめて前向きの、かつ根源的な姿勢で貫ぬかれていたと思う。

彼女は「神は父か、それとも父と母か」といっ

た性差別の視点からのみ扱うのではなく、もっと大きな視野からこれを捉えようとしていた。

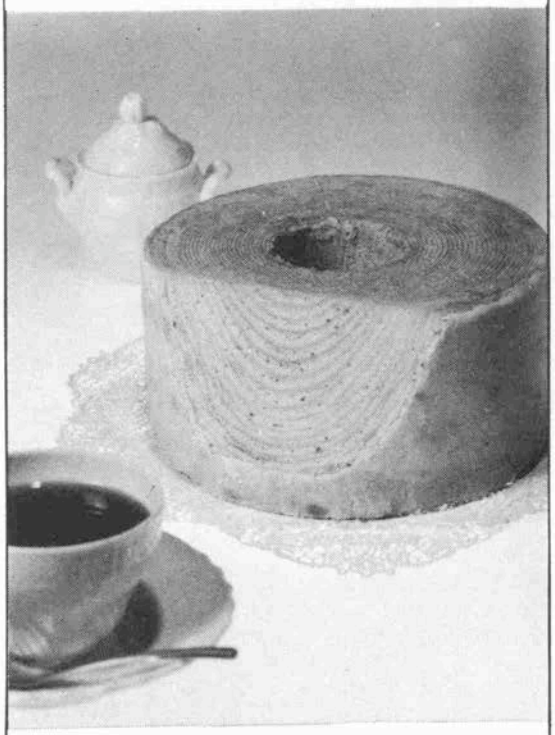
「神の観念も、父か母かの問題ではなく、権威あるオリンポスの山にいますゼウスの神の理解に対し、イエスが呼びかけるアバなる神は別の面を持っていること、すなわち、神を私たちの持つ既成の範疇に押し込めるのではなく、信仰のビジョンを大きく開くための理解の上に立つことを目的としている。人間の経験の中にある神のイメージは、人間の経験の中で理解されるのだが、それだけに押し込めるのではなく神の理解をもっと大きくとらえようとする表現であるといえる。」



これを私ふうに解釈すれば、「父と母なる神」などという言い替えも、オヤジ、オフクロといった人間の経験の範囲内で理解すべきでない、ということでなければならない。「父なる神」も権威ある父親像、からの類推であってはならない、ということである。もちろん繋がっているけれども。このもちろん繋がっているけれども、という掴まえ方が重要で、逆ではないのである。イエスは、権威ある父親像から類推して「父なる神」という呼びかけを行ったのではない。後世、ここから権威ある父親像が形成されて来たことは認めるとしても。

私がYMCAで話したことは、オリンポスのゼウスの神にしろ、イエスの呼びかけるアバの神にしろ、当時（イエスの時代ではない、もっとそれ以前の、ゼウスの神やアバの神の信仰が始まった頃）、母系社会がようやく崩れ、父系社会が成立する過程のなかでの信仰ではなかったろうか、ということであった。母系社会とは、もちろん原始的社会である。したがって男たちは、動物と一続きであるこうした人間の生活を向上?さし、意識の上でも動物と区別された生き方をしようとした「父」という観念は、こうしたなかで生まれた。「父」という観念が、男性文化の、言い換えれば人間の文化の初まりであり根本であるとすれば、そして宗教がその窮極として存在するものであるとすれば、この場所をはずして物事を考えるわけにはいかない、とするのが私の立場なのである。ちなみに私は、女には宗教は不要だと思っているのです。

大きく育った
味の年輪



バウムクーヘン ¥700−¥3,000

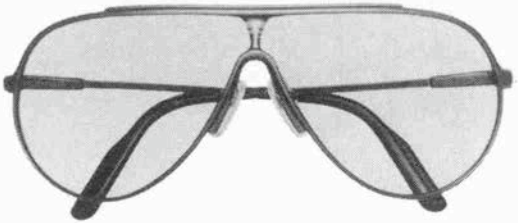
北欧の銘菓

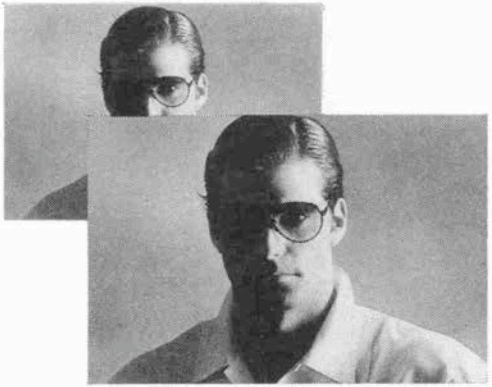
ユーハイム・コンフェクト

本社 神戸市中央区熊内町1−8−23 ☎221−1164

最先端の技術が生んだ

Carbomax





Nikon SUNGLASS

GIUGIARO

神戸眼鏡院

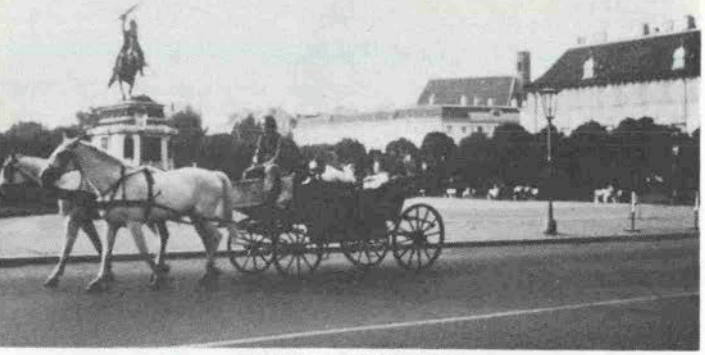
元町店・元町3丁目 ☎(321)1212代表
三宮店・さんちかタウン ☎(391)1874〜5

地域文化論

ウィーンの表情

＜その54＞国際文化都市

藤岡　ひろ子
＜甲南女子高校専任講師＞



王朝時代をしのばせる王宮庭園

ウィーンは、豊かな伝統と芸術をちりばめた町であるが、新たに国際機関を導いて、中立国の首都の形成に向けて歩みはじめている。その昔、ローマ軍はドナウの河岸に宿営を置いたが、そこを核としてレオポルト王朝（一二〇〇年頃）はアム・ホフ広場から半径二キロメートルのところに城壁を築いた。今それがとりはずされ、リンクとよばれる環状道路となっている。この内側には、カール六世・マリア・テレサ（一八世紀）の王制時代を中心に数多くの芸術の粋が生み出された。私が先ず訪れたのは後期ゴシック様式のザンクト・シュテファン寺院（一四～一六世紀）であった。第二次大戦の戦災で崩壊したこの建物は教区市民の献身によって再び威厳をとり戻した。空高くそそり立つ塔の見ごとな装飾・彩色あざやかな屋根・トルコ軍から奪った大砲から造ったというプンメリンの鐘、おごそかな堂内など、すべて中世の神秘がただよっている。この塔（一三七メートル）に登りつめると、市街地が目の前に展望される。ドナウは陽に輝いて市の東を流れ、東欧と黒海をつなぐ中継の港を河岸に築いている。マリア・アム・ゲシュターデ寺院・フランシスコ教会・聖ペーター寺院・歌劇場・王宮・博物館・大学などの多様式の建物が、広い庭園や緑の間に点在している。リンクの外へと通じる道とそれをつなぐ道路はヨーロッパの著名な文化人、政治家の名をとどめている。ウィーンがヨーロッパ各地の文化の結び目であることを象徴するものといってよいであろう。ネオ・ルネッサンス様式のオペラ座はリンクと繁華街ケルントナーの交差点に位置している。この建物の戦災復興にかけた市民の夢と熱意が、今またウィーンを多彩で永遠な音楽の町としてよみがえらせている。華麗ではあるが複雑なオーストリーの運命を内蔵するホーフブルク城の古い部分の建築は十三世紀にさかのぼることが出来る。

モーツアルトの住んでいたという家をやっと道の奥まったところに捜し当てたが、そこにはつましやかな老婦人が楽聖の遺品を静かに守っていた。夏の陽のかたぶく頃、ラートパルクで野外音楽会を開いた。そこに集まる人の群のなかではじめて、ウィーンの日常にふれる思いがした。そこからほんの僅かの距離のところにギリシャ風の国会議事堂（一九世紀）がある。アテネの神像、水の神と泉・騎馬の彫像の見ごとさが旅人の心を魅了してしまうのだった。

一九五五年を期してオーストリアは永世中立国となり、ウィーンは積極的に平和に貢献する施設に力を入れることになった。ドナウのむこう岸の広大な自然のなかに国連都市UNO・CITY（ウノ・シティ）が建設されるようになった。そこには国際会議場・国際原子力機関・国連工業開発機関などが置かれ、国民もその地域への投資を惜しまい。この町に流入する難民や亡命者にも人道的対応がおこなわれているウィーンは博物館の宝庫としてでなく、新鮮な機能を導入する生き生きした国際都市といえよう。

●インタビュー／珈琲飲みながら

阿久 悠〈作詩家〉に聞く

脳が一番若い都市KOBEに。

作詞家の阿久悠さんが、ユニバーシアードのテーマソング応募詞選考委員として来神中にインタビュー。

★ポートアイランド、淡路島をマンハッタンに！

——いかがですか応募の作詞のレベルは？

「いいほうじゃないですか。レベルは高いでしょうね。神戸の街をいかにユニバーシアードでアピールするかという、神戸に視点を置いた魅惑の表現がどれくらいあるかなと思ったら皆無だった…。テーマがはっきりしすぎていて〝若さだ〟〝汗だ〟ってことになるんですね。それから、神戸の人の応募がえらく少ないですね（笑）」

——新春に坂井知事との座談会を拝読いたしましたが。

「去年の秋頃から四回ぐらいかな、お逢いしてます。来年、淡路に鳴門大橋が架るものですから、それを記念しての〝くにうみの祭典〟テーマ構想委員ということで。

南の鳴門側に橋が架ると半分が島でなくなる、21世紀には恐らく神戸側からも架ることでしょうね。そうなると神代の昔から営々と島として暮らしてきた島の人間としての在り方が完全に切れてしまう。島でない人間の生き方を見つけなきゃいけない。大変な意識差ですよ。思いようによっては住む人間をいいように発展させられる。しらけるといいことを他の人に全部やられる。だからほんとに大事な時ですね。ぼくが十八才迄育った島だから、たんなる橋桁になるんじゃなくマンハッタンになってほしい。島でなく中之島っていう考え方をどうするか。風光明眉を破壊されないかという問題と、住んでる人間が活力を持って生きられるかということも大問題。

ポートピアホテルに泊っていると、ここもポートアイランドでマンハッタンにはここの方が早いね（笑）可能性も強いし、現実にその方向に進んでいる。日本最大の街になるかもしれませんよ。ぼくは街に興味があって何をやりたいって〝街のデザイン〟を一番やりたいの（笑）

日本の中では、ほとんど300平方単位で個人地主が持っている。その利益や感情をそこなわないように街を創るって、到底不可能でね。出来るとすれば島、昔からの島

でなく人口島で、土地の所有者が個人でないというのは、今ないわけでね。神戸自体に活力が出てますし、楽しみですね。外から見ていて神戸はここ二十数年ずーっと動かずにいて、ダメだな明治村で、昔、ここは新しかったんだよなんていいながら一番古いことをやってるってことになりかねない。ところがここ何年間凄いですね(笑)」

——阿久さんが淡路を出られたのはどうしてですか。

「ぼくはもう、嫌いできらいでね、ほんとの気持。もともと淡路の人間でないし、ここに根を下すって気はないわけで〝いつか出て行くぞ〟って気がね。自分の住む場所はないというのが基本でね。出て行って犬死にするか飢死にするか判らんが出て行く。出て行って何をするかなっていう想いで十八年。高校卒業するまで何か淡路出るまであと何日(笑)ってオリンピックみたい。まあ嫌いというより外へ行こうとする気でね。淡路だけでなく、佐渡や、沖縄や、奄美の島の人々は自然に乳離れが出来るんですよ。自分で決心して島を出る時が、中学生であれ、高校、大学生であれ乳離れですね。それが自然に作られるというのは非常に有利ですね。ある種の強さが出ると思いますよ」

——このファッションタウンに新本社を建てたジャヴァやワールドさんも淡路の出身ですものね。

「〝出る〟と頑張るんです。ぼくは逆で島に家がないから失敗しても帰らない。家がある人は余計に帰りにくいぼくはないから気が楽で。渡し舟にのって本船に乗り移って神戸へ出て来るというのは大変なことですよ。ちょっとやそっとで帰れない。淡路みたいな近い島でそれだから。荒海千里だとその決意はもっと凄い(笑)」

——島離れをした時のエネルギーって何なんでしょう。

「出さざるを得ない。ぼくは長野へ行くと特に松本なんかへ行くと、日本一の勉強県で昔から勉強するところで、目が覚めると屏風のようにアルプスに取り囲まれている。あれを毎日見て暮らしていると〝高い〟ところ行かなきゃいけない。人より上へ行く〝高い〟ところへ行って初めて向うが見える——、見るためには、勉強しないといけないといけない——登らなければいけない。島や海岸に育った人間は、人の上に立とうという感覚より、同じ同じ出世感覚でも〝遠くへ行こう〟という、遠くへ行くというのは涯しがないし、永遠に水平線なのね。三千七百七十六メートルの富士山が一番高いけれど、水平線を視てしまった悲劇は涯しがないわけでね。(笑)」

★観て下さい！映画「瀬戸内野球少年団」

——今度、映画化される〝瀬戸内野球少年団〟のお話を伺えませんか。

「ぼくらの世代が書いておかなきゃいけない部分で、戦後史の重要性で、政治、経済、イデオロギーなどからの人とらまえ方でなく、あの時代に生活している子供や大の眼の高さで書いたものが殆んどない。八才～十二才位までで終戦を迎えた子供達、終戦の悲惨さじゃなく、民主主義との出会いのときめきみたいなものを伝えなきゃいけない。ぼくが昭和十二年生まれで、終戦が八才。昭和二十年～二十四年という時期で、日本の歴史の中で唯一、絶対の価値感がなくて、個人の価値感が優先した歴史上たった四年間はユートピアなんです。食うものもなかったけれど、誰でもえらくなる可能性があったし、楽しむ可能性もあり、誰でも死ぬ可能性があった。昭和二十五年に朝鮮戦争が始まると、金もうけの上手いのが一つの地位を確保する。政治的発言の強い人がリーダーになる。たった四年間でユートピアが消える。だからテーマからいうと戦争ひきずった大人達と、民主主義に出会った子供たちとのふれあいといいますかね。その時、自然に生まれてきた人間の中に生まれてきた活力と、活力を支えるためのユーモアが絶対いる。これはPRするようだけど映画はもの凄くいい出来です。70%撮りあげて編集も終わってるけど四月に満開の桜の下で進駐軍と子供たちの野球の試合というクライマックスを撮り残しているのです」

——篠田監督、宮川カメラマンなどいいスタッフですね

「篠田さんはぼくが熱望して、早稲田の箱根駅伝の選手ですから（笑）でもこれは重要なことで、あの人は体育系ですから（笑）でもこれは重要なことで、あの人は体育系から文化系に変わっていった人でしょ。マラソン選手から創作監督に変わった時点で、体育系の雰囲気を出さないように出さないようにして映画を創って来られている。一回ぐらい出していいんじゃないんですか（笑）」

——野球少年から作詞家という変身も似ていますね。

「ぼくが作詞をやったのはビートルズが出て来て楽器革命が起きて、エレキギター時代となって流行歌にのせるようになった。今までの流行歌が壊れて焼跡のようになって、既制の作詞が、また〝リンゴ可愛いや〟に戻るかと思っていたら戻らなかった訳、その焼跡でなかにし礼や橋本淳らとぼく達は作詞家になった。これがなかったら旧態依然とした徒弟制度の中で作詞家になる。これはぼくらには出来ないですね。ぼくたちは心情を詩って時代の中とどう関っていくか、時代の中で言葉やアクションがどう変わるかといった言葉の鮮度が年によって変わる。その生きものとしての言葉をどう捕えるかということで詩をやり始めている。〝白い蝶のサンバ〟が100万近く売れて、びっくりする程金が入ったの。それ迄ぼくは放送作家として相当売れっ子だったのに、日常台本書いて台本料もらってたのに、原稿用紙二枚くらいのものが、こんなお金になるのかと、ぼくの頭の中で革命が起きたのね（笑）価値感の広がり方の早さ、台本一つ書いたのと違うのね。テレビで何千万の人が見てるけど、見てるのに又買う人が多い。またその早さね。書いて一月もすればいいか悪いか。〝生きもの〟として世の中を渡って行くかどうか見えてくる。ヒット曲になるのは、いいものできたと思う。レコーディングする、いい曲できましたね。反応いいよ。売れてるらしい。ぼくのところに戻ってくるときには〝あんなに売れる筈ない〟〝あの考え方が通じる訳がない〟〝子供がなぜあんな歌を喜ぶ筈がない〟お化けになって帰ってくる。ピンクレディなんて、色気づいた高校生が喜べばいいと思ってたのに、幼稚園が先になって（笑）聞いた人が自分の使い方をする作者はこうかもしれないけど、ぼくはこうだっていう。こういう活力のあったのは七〇年代ですね。八〇年代は、歌は活力がない。タレントの人気の中で勝負している。聖子ちゃんの歌が時代のキャッチフレーズになっていない。歌手はしらないけど言葉が騒ぎを起こすとか、時代をリードする、予言めいているというのでないと。ビートルズが出て来た時に昔の流行歌はなくなったといったけど、去年から演歌でね（笑）。ぼく達の負けですよ（笑）ポップスは日常生活の中のメルヘンだった。現実は、縄のれんで焼鳥と焼酎というね。今、逆でみそ汁たべたいのに、紅茶のんでトーストにマーマレイドぬって食べるメルヘンが日常になってしまって、逆に日本的な、ぼくらの年に心中するというのがメルヘンなのね。世の中がさらりとスマートになると逆に泥くささが受ける訳で。現実とメルヘンが時代によって違ってくる。ファッション、食べものすべて同じに。スイトンが付加価値になって、ノスタルジィ代を含めて五千円ですよ。全て今は、世の中付加不価価値ですね」

——今、映画というのはやりたいことをやるという…。

「ぼく達は世代的に本を読み、映画で洗礼された。だから映画は夢ですね。只やろうと思えばポスターづくりでも監督でも音楽でも、脚本でも、出演でもね、何でも出来る（笑）文化に関った人間なら全員、映画はできるのですよ」

——最後に神戸へのメッセージは？

「脳が一番若い都市なんだっていうことですね。ファッションにこだわっているとファッションと心中する恐れがある。ブレーンが若いんだ。ブレーン都市なんだということでしょうね。ファッションとスポーツを選んだ中で何が一番若いのかというブレーンづくりをやることでしょうね。こだわりすぎると老化するので、神戸も固まらないように頭を常にゼリー状にして頑張って下さい。」

ポストモダンの理想的なファッションタウンを求めて

K.F.T.（神戸ファッションタウン協議会）

株式会社アシックス
上島珈琲株式会社
株式会社大月真珠
オールスタイル株式会社
カイタック株式会社
カワノ株式会社
株式会社キャンプロモーションセンター
株式会社キャラバン
株式会社キムラタン
協同組合ニッポンインテリアチェーン
株式会社神戸鳳月堂
株式会社神戸ポートピアホテル
有限会社コスモポリタン製菓
株式会社ジェルベ
株式会社ジャヴァ
株式会社シャルレ
株式会社ジュン
株式会社ダイエー
田崎真珠株式会社
東亜特殊電機株式会社
株式会社パール
株式会社マドンナ
三井不動産株式会社大阪支店
三菱地所株式会社大阪支店
株式会社モードオリオン
モロゾフ株式会社
株式会社ヤナイ
株式会社ユーハイム
株式会社リオ横山
株式会社ワールド
以上30社（50音順）

●K.F.T.事務局／〒651／中央区浜辺通5丁目1番14号神戸商工貿易センタービル17F ☎078（251）0655